



廣井博士墓參會

廣井勇博士逝去後今年は十一年に當る。博士逝去の日たる十月一日には、博士の遺徳を偲ぶ人々が相集つて、博士の靈域たる多摩墓地に墓參するの例であるが、今年は特に國家の重大時局であり、支那事變の爲に多忙を極めてゐる人々が多く、聖戰の各地からも遙に博士の冥福を祈られた事と思ふ。

當日は名井博士及び池邊氏等が午後二時に多摩墓地の休憩所たる茶亭玉川に先着し、少憩の後、一同相會して靈域境内に歩を運ぶ、亭々たる松樹の間に、掃き清められたる砂利道も清々しく、其左右には最近物故せる知名の士の墓も多く見受けられる、特に關直彦氏とか、新渡邊稻造博士等の銅像なども異彩を

放つてゐる。東京府土木部長たりし來島亮助氏の墓なども一同の歩を止める。

廣井博士の墓域は年毎に樹枝の茂みを増して來てゐるが、一點の落葉もなく清められたる墓前に、一同より生花を供へ、順次墓前に黙禱して墓參を終つたのは三時頃であつた。

當日午後の參會者は次の諸氏であつた。

名井九介	伊藤長右衛門
阿部美樹志	小川襄亮
松尾末太郎	吉村惠吉
山崎匡輔	關毅
眞島健三郎	遠武勇熊
谷口三郎	岡崎保吉
樺島正義	池邊稻生